

筒井京子教授のご退官によせて

著者	石垣 和子
雑誌名	北海道女子短期大学研究紀要
巻	23
ページ	1-2
発行年	1988
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00001689/

筒井京子教授のご退官によせて

服飾美術科教授 石 垣 和 子

本学、開学当初の昭和38年より、現在、服飾美術科の科長として活躍中の筒井京子教授には昭和64年3月に、停年退職を迎えられます。

短期大学創立期から実に26年の永い間、服飾美術科の重鎮として、私共にさまざまなご指導とご助言を下された筒井教授に、心から感謝申し上げ、今後更に一層のご指導をお願い申し上げます。

先生の社会的活動や業績は、服飾美術科の母体である浅井学園北海道ドレス・メーカー女学院に奉職された時から始まります。先生が同学院に専任として勤務されたのは、戦後、ようやく世相が安定した、昭和25年のことで、以来、今は亡き浅井淑子学園長の片腕として誠心誠意職務に専念され、その後、短大開学と同時に本学に移籍されました。

当時、被服科として新しく発足した科の創設期にあって、被服教育の方針とその基礎作りのために、人知れぬご苦労のあった事は、当時の様子を懐かしみながら話される言葉のはしに感じとる事が出来ます。学園創始者であり、初代服飾美術科科长であった浅井学園長、三代目科長の久野久仁先生が、ともに故人となられた歳月の中で、服飾美術科の土台骨を支え、わずか、120名の学生から出発して今日の隆盛をみるに至ったのは、時代の流れを察知して服飾教育に傾けられた先生の情熱と功績によるところ、大なるものがあります。

私が始めて先生にお会いしたのは、昭和28年で、その頃、服飾技術を学ぶべく、同学院に、入学し、第一寄宿舎（現在地札幌市中央区大通り西20丁目）へ入舎、そこで舎監をしておられた筒井先生にお会いしたのです。明朗快活で、センス豊かな先生は、舎監というイメージから程遠く、話のわかるお姉様という印象でした。しかし先生は、舎監としても10年間つとめられ、寄宿舎の管理、学生の身上相談、病気など、さまざまなトラブルに対応しながら責任ある仕事を果されました。一日の勤務を終えて、更に舎監という重責を完全に果された先生のエネルギーは、天性の明るさと、柔軟性のあるお人柄によるものでありましょう。

三年後私も高等師範科（現在のデザイナー科）を卒業して、同学院に奉職がきまり、以来、仕事の上でも先生の助手としてご指導をうけ、公私共に大変お世話になりました。

次に、同学院と短大を通して、40年に近い職歴による数多い業績の中から、私は学院在籍中の先生の社会的活動と、研究業績の一端について述べさせていただきます。

◎社会的活動について

昭和14年に創設された北海道ドレス・メーカー女学院は、戦後の混乱期をのり越えて、昭和25年頃から拡充期に入り、洋裁教育も社会的に認められはじめ、先生には、学院に勤務された

翌年の26年に、札幌市教育委員会主催の成人学校の講師として、指導にあたられました。

翌年昭和27年には、北海道新聞社主催の全道ファッション・コンクールに出品し、ドレスの部、一席で入賞を果し、研究成果を挙げられています。社会生活の安定とともに、全国的に、ファッション・ショーが盛んに行われるようになり、上記のコンクールの審査員も著名な服飾研究者が、中央からこぞって来道し、当時としては権威のあるコンテストでありました。

次いで昭和29年には、家庭着特選、ツーピース佳作、31年に家庭着入選、家庭着佳作2点、32年には、ドレス入選と佳作、家庭着入選とあいつぐ活躍ぶりでした。

同32年、「北海タイムス」に、防寒着（デザイン・製作）を掲載、33年には、HBC テレビ出演でスポーツ・ウエアーについて講義を担当されました。34年には、職業訓練指導員試験の試験補佐員を、また35年、36年には、NHK 主催による「洋裁講座」に、浅井学園長の随伴講師を務められております。

特筆すべき社会活動としては、昭和37年4月（初演）、同8月（再演）の二回にわたるミュージカル「ピノッキオ」の舞台衣裳のデザイン及び製作を担当された実績でありましょう。

初演は、鉄道弘済会北海道支部の主催で上演され、児童に見せる健全な娯楽として好評を博し、次いで第79回「さっぽろ・市民劇場」として再演されたのです。ミュージカルの中で、音楽や舞踊と同様に重要な役割をもつ衣裳の担当者として先生は、舞台衣裳研究学生グループを結成し、率先してその指導に当たりました。衣裳作りに対して、緻密な神経と、少しの妥協も、許さない厳しい指導ぶりは、亡き浅井学園長ゆずりで、授業の終わったあと、真夜中までミシンを踏む学生達を、叱ったり励ましたりし乍ら製作に打ち込んだ成果は見事に実を結んで、上演された「ピノッキオ」の舞台を盛り上げ、高い評価をうけられたのです。

◎研究業績について

- ・北海道における婦人の下肢保温について－北海道私学教育研究会発表（共同研究・昭38年）
- ・北海道における婦人の下肢保温について－北海道私学教育研究会紀要（共同研究・昭39年）

以上のように、各分野で多彩な社会的活動と研究業績をあげられ、昭和38年、本短大に移籍後、更に研さんをつままれて多くの研究業績を残されていることは、周知の通りであります。

昭和55年、浅井学園創立40周年記念短大第一回研修員として、南フランス（プロヴァンス地方）の海外研修旅行に先生と同行いたしました。フランス文化の発祥の地として知られているこの地方の研修では、衣服文化の源流を訪ねる事が出来、貴重な収穫と体験が得られました。

また、本年7月には、アメリカ・ミネソタ大学で開催された国際家政学会に出席し、世界的な大会に参加して視野をひろめ、更に同大学の被服学部・家政学部の研修及び、ニューヨークではメトロポリタン美術館衣装デザイン部の見学など、服飾関係の研修地をとともにすごし、このような機会に恵まれた事を心から感謝いたしております。2回に亘る海外研修を通して、先生の服飾研究に対する旺盛な意欲と、服飾美術科の将来の示唆となり得る視察や研修には、積極的に参加して、後進の指導にかける熱意をつよく感じる事が出来ました。

一層のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、ご退官によせての稿を終らせていただきます。